

教頭先生の主体的な取組

各学校園で、教職員のワークライフバランスの確立のために、様々な視点から働き方改革に取り組んでいただいていることに感謝いたします。

さて、時間外在校等時間が月45時間以内の教頭先生の割合は、他の職種に比べて少ない状況が続いています。そこで、各校種の教頭会で、学校全体の働き方に加え、教頭先生自身の働き方改革をどう進めるかということについて、主体的に研修を進めてもらっています。また、各校種の教頭先生の代表から集まっていただき、互いの勤務状況について情報交換をしたり、効果があった取組を共有したりする教頭懇談会を例年開催しています。今回は、これら2つの取組を紹介します。

★1 教頭の働き方改革研修会

6月22日に行われた新潟市小学校教頭会全体研修会では、テーマを「忙しいのは当たり前、児童生徒のためなら仕方がないを見つめなおす」として、『先生が忙しすぎるのをあきらめない』『先生を死なせない』の著書で有名な教育研究家妹尾 昌俊 様をお招きして、講演を聞いたり演習をしたりしました。

たくさんの興味深い話の中で、「国や教育委員会が進めることも多いが、各学校でできることも多くある。自分たちの職場を自分たちでよりよくしていくために、具体的にどのようなことができそうか考える」として、教頭先生の業務の見直しや改善に向けて、以下のような視点が示されたそうです。



- 多すぎる業務・雑多な仕事を少しでも減らせないか、やめられないか、仕分ける
→いつ、どんな業務をしているか洗い出し、業務の見える化から改善を考える。
- 仕方がない、頑張るしかない、と捉えるのをやめて、ヘルプを出して分担する。
→だれかの犠牲のもとでいいわけがない。校長や事務職員と業務を分担する。
- 集中できる時間をつくる
→教頭が業務に従事できる「集中タイム」を設ける。この時間の電話等は他の職員が対応する。
- 仕組みを整える
→ちょっとしたコツ、ミスを防ぐためのアドバイスなどを複数校で共有する。



【教頭先生方の声】

- ・変えられることの一つとして、施設できる体育館2階の部屋をPTA室にしました。学校開放と同じような対応ができて、気持ちになりました。
- ・保護者に「現在も過労死ラインを超えている先生が多いです。もっと楽にさせてあげてください。」と言える管理職であってほしい、という妹尾先生の言葉が心に響きました。

具体的な資料やエピソードを交えながらの講演や演習で、何のために働き方改革をしていくのか再確認することができ、たくさんの学びと元気を得ることができた研修会になったそうです。

★2 働き方改革に係る教頭懇談会

9月27日に、各校種の教頭先生の代表に集まっていただき、働き方改革に係る教頭懇談会を実施しました。普段、あまり知ることがない他校や異校種の働き方改革の取組状況、教頭の多忙化解消の取組などについて、本音で話し合うことができて充実した懇談会となりました。



★各校で効果があった取組★

- 校内での退勤時刻の目標設定
- 校務支援システム(C4t h)の積極的活用による情報共有
- 欠席連絡、保護者連絡などの電子化(ペーパーレス化)
- 児童生徒の下校時刻を早め、放課後の業務時間を確保する校時表の工夫
- 学校行事やPTA活動の内容の精選
- OCSとの連携による地域ボランティアの活用

- 働き方改革に関連する校内便りの配付や職員アンケートの実施による意識改革
- 部活動の地域移行に向けた取組

★教頭の多忙化解消に向けてのアイデア★

- ◇教頭同士のネットワークを強化する(情報交換と取組の共有)
- ◇教頭業務の分担と協働を校長、各主任、事務職員等で一層進める
- ◇PTA業務と地域との関わりを見直す
- ◇諸案件について、対応をマニュアル化して、学校ができることを具体的に保護者や地域に周知する
- ◇新任教頭へのサポート体制を整える
- ◇国の動向に伴って、教頭業務を支援する人材の確保や配置を工夫する

教頭先生の時間外在校等時間が減っている学校は、他の職員の時間外在校等時間も同様に短くなるようなようです。教頭の多忙化解消の取組によって、職員全体のタイムマネジメントの意識が広がる、協働と分担が進むのではないかと捉えています。このような好循環が、多くの学校に広がっていくことを期待しています。

